

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社なんてん共働サービス	代表者	中村 定義	法人・事業所の特徴	認知症になっても 障害があっても いつまでも 住み慣れたところで 自分らしく みんな登一緒に 助け合って 暮らし続ける
事業所名	小規模多機能型居宅介護 樹林	管理者	北村 睦美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	2人	人	人	1人	人	3人	人	7人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	評価・計画の意味を知らせる機会を作る	個人評価は7名の参加 評価の意図を伝えながら丁寧にはできていないが それぞれが考えて評価をしてくれていた 事業所評価は管理者一人で行っていた 人手不足で複数人数で評価ができていなかった	地域との連携がなかなか進まない 毎年の課題であると自覚する イベントの継続はでき、民生委員さんがたくさんお手伝いにきてくださるようになった	評価の意図についての説明、全体会議での評価ができる
B. 事業所の しつらえ・環境	室内物干しコーナーを作る	・念願の物干しコーナーができた ・玄関先もととてもきれいにして気にかけておられるのがわかる ・ゴミは二重袋にして外に保管されており、臭いにも気を付けておられる。 ・鍵も常に開けておられ、窓のカーテンも開けて内外から声かけられやすい。 ・居心地のいい空間について、環境を整えてくださっていると思う。自宅から樹林に来たくないと言われるおとしよりもおられるが、ご本人の個人的な理由	・居心地のいい環境について、樹林のように1フロアで安全面はよいが、常に見られているという緊張感もある。 これからの高齢者は全員で集まって何かをするのを好まない方も増えてくる。個別で過ごすことができる居場所づくりや、心がけができるようになってほしい。	おとしよりそれぞれの居心地がよい環境づくりに取り組む

		であり、樹林が居心地悪いからではないと思います。		
C. 事業所と地域のかかわり	事業所の基本情報のみの樹林だよりを作る	・樹林だよりが作れなかった ・樹林の存在を知ってくださる方は増えてきている ・包括にも樹林を利用したいと言われて相談されてくる方も増えてきている ・介護相談のポスターを貼っているが、直接相談には来られない	・地域の方の相談できる場所にはまだ難しい段階。地域の人になじみになってもらえるように地道にイベントなど続けることが大事 ・例 にこにこ DS は石部のまち協とのコラボをされている ・南のまち協ではサロンを月・水にされている。包括も参加している。 ただ、初回は理由がないと入りにくい。 ・介護相談日を設けて周知してみるのもいいのでは ・なんてんを知っておられても樹林がつながっているとは知らないことが多い 地域に名前が浸透しているなんてんの会社をアピールすることもいいかも	イベント（地蔵盆、芋ほりや焼き芋）を継続し、地域の方に参加していただく
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	担当学会議に民生委員さんや組長さんの参加をお願いする	・まだまだ事業所が地域に出向けない、かかわれていない ・利用されているおとしよりと近所の方のつながりが把握できていない ・事業所だけで利用者のサポートを抱え込んでしまっている	・人手不足で地域のイベントに参加できない。やりたくてもできない。 ・訪問や送迎時、近所の方にいさつなどはできているがいざという時の連携ができていない ・やはり、地域や近所の方が樹林の存在を知ってもらうにはイベントの継続をし、時間をかけていくしかない。あきらめないこと。	途切れていた保育所との交流を少しでもいいので始める

			・途切れていた保育所などの交流を少しでもいいから始めていく。	
E. 運営推進会議を活かした取り組み	より広い地域の人達が参加できる地蔵盆を企画する	・自分の親を介護している身にとってデイ（通い）でそのまま宿泊ができることが樹林では可能なので、ありがたいことだと思う ・発熱があっても家庭の状況によって利用ができたりすることは小規模多機能のいいところだと思う ・家族として介護は地獄と思っている。ただ、いつも機嫌よく事業所に通ってくれているだけありがたいと思っている ・会議に出ることで取り組みがよくわかり、事業所の違いも理解できる	・今後も運営会議で話を深め、タイムリーな事例があげられるようにする ・委員の皆さんにも経験談や意見などをどんどんいただけるようにする ・市や地域からの情報を樹林の事業活動に活かす	委員からいただいた情報や意見を樹林内部の会議などで周知する
F. 事業所の 防災・災害対策	消防計画（総合防災計画）を委員さんに配り説明する	・事業所内での BCP の研修、訓練の必要性を感じている ・災害や火災時に樹林も近所の方の力を借りなければならないと理解はできているがなかなか行動が供ない状況である。	・樹林と地域の関係をつなぐためにも、イベントの開催と、地域の行事への参加が必須。ただ、人員不足のために参加ができないことが毎年の課題である。 ・顔なじみになることで、樹林の防災・災害時のお互いの支援連携にもなるはず	運営推進会議で BCP 訓練と避難訓練の報告を行う